秋に読みたい本

『本ってだいたいこうなってますよね?』 西岡 裕二／著 技術評論社 022ニ



普段なにげなく手にしている本ですが、つくりをじっくり眺めたことはあまりないと思います。本書は、文庫・新書などの本の種類、本の構成や文字といった本の中身、本についている記号やバーコードなど、モノとしての本を解説しています。意外と知らない奥深い本の世界に触れて、今年は本の内容以外の部分も楽しむ読書の秋はいかがでしょうか。

『いも くり なんきん、ときどきあんこ』 中川 たま／著 文化学園文化出版局 596.6ナ



さつまいも、くり、かぼちゃ、あずき、秋の味覚がおいしい季節になりました。本書はシンプルで体にやさしい材料を使用し、旬の味わいを最大限に引き出したお菓子のレシピ集です。どこか懐かしい定番の和菓子から、おしゃれな洋菓子まで、秋を感じる多彩なお菓子が美しい器とともに紹介されています。

『なるほどフェルメール』 千足 伸行／監修 河出書房新社 723.37



本書は知識がなくても読みやすい、やさしい美術入門書です。名画「真珠の耳飾りの少女」を含む掲載作の全作品がカラーで収載されており、見ているだけで楽しめます。なぜ私たちはこの作品に惹かれるのか、画面に隠された凄みや秘密が分かりやすく解説されています。先月まで公開されていたフェルメール展の感動を味わいたい方、これからの美術鑑賞を豊かにしたい方におすすめです。

『「恐怖の報酬」日記』 恩田 陸／著 講談社 915.6オ



タイトルを見て、どんな本かな? と思われたのではないでしょうか。本書は、著者がイギリスとアイルランドを取材した旅行記です。実は著者は大の飛行機嫌い。それ故、機内で気を紛らわせるため対策を考え空想もして何とか乗り切ろうと奮闘します。臨場感とユーモアあふれる描写に、引き込まれると共にくすっと笑えます。

『月虫の姫ぎみ』 富安 陽子／文 五十嵐 大介／絵 講談社 E



月に棲む虫、月虫。彼らが星くずに産みつけた卵は地球へと落ちていき、そして月虫の幼虫が孵ります。幼虫は光を放って人を呼び寄せ、人にエサをもらって育ちます。人の手で大事に大事に育てられた月虫は、やがて美しい姫君に成長します。少し不気味で恐ろしく、とても美しい絵本です。月のきれいな夜にどうぞ。

【絵本コーナーにあります】

ビブリオトークのご案内

発表者がそれぞれおすすめの1冊を紹介するイベント、ビブリオトークを開催します!
今年のテーマは「秋に読みたい本」です。秋の1冊を見つけにきませんか?
日時:11月15日(日) 午後2時~3時30分 場所:守山市立図書館本館 集会室

